

長岡まつり大花火大会に関する 長岡市・長岡花火財団 共同記者発表要旨

日 時：令和4年7月22日（金）午後3時30分から
会 場：アオーレ長岡 東棟4階 大会議室

【発表項目：長岡まつり大花火大会情報】

出席者：長岡市長 磯田 達伸
一般財団法人長岡花火財団 理事長 高見 真二

（司会）

これより、長岡まつり大花火大会情報について、長岡市と一般財団法人長岡花火財団による共同記者発表を行います。はじめに、概要について磯田市長がご説明いたします。

（市長）

今年の長岡まつり大花火大会は、万全な感染防止対策をとりながら、予定どおり開催いたします。

現在、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加している中、安全安心な花火大会とするために、皆様に次の5つのお願いをいたします。

一つ目は、体調の悪い人は来場しないでくださいということです。発熱、だるい、鼻水が出る、喉が痛いといった方は、会場には来ないでいただきたいと思います。

二つ目は、観覧チケットのない方は会場に近づかないでいただきたいということです。自宅でテレビ、インターネット、または近所で観覧いただきたいと思います。

三つ目は、会場内では大声を出さないでいただきたいということです。「感動は大きく、声は小さく」ということで、掛け声や歓声の代わりに拍手をしていただきたいということです。

四つ目は、お酒は控えめに、アルコールはできるだけ飲まないでいただきたいと考えております。過度なアルコールの摂取によって、大声を出す原因にもなり、感染拡大の原因にもなります。くれぐれも、節度ある飲酒とともに、食事の時には黙食をお願いいたします。

五つ目は、マスクの着用を原則とするということです。特に混雑するところでは必ずマスク着用という原則を守っていただきます。ただ、熱中症の危険がありますので、人と人との距離が十分取れるときや会話をしないような状況では、マスクを外していただきたいと思います。

長岡まつり大花火大会は、これまで日本一マナーの良い花火大会を目指して開催しており、高い評価をいただいております。感染禍の中で大花火大会を開催するために、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

私からは以上ですが、感染症対策を含む大花火大会の詳細情報につきましては長岡花火財団からご説明いたします。

（長岡花火財団 高見理事長）

長岡花火財団では、従来から通常開催に向けた準備を進めてきました。感染が拡大していることを認識した上で、理事全員に確認の上で予定どおり準備を進めるということで理事会の判断をいただいて、市長とも協議を行い、予定どおり開催するということを決めました。また、市議会にもそのような報告・説明をしているところです。昨年と異なり、感染者数は増えてい

るものの重症者の数は抑制されており、現在、国や県から行動制限を求められていない状況で、感染対策の計画について県と協議し了解をいただいている状況ですので、長岡花火の意義や多くの市民の期待に鑑みまして、実施することとしたいというものです。

長岡花火財団としてもできる限りの対策を講じますが、観覧していただく皆様や、市民の皆様のご協力がないと安全に実施できませんので、「みんなのご協力をいただいて、みんなで安全な花火を上げよう」という気持ちで進めていきたいと思っております。

「体調が悪い人は来場しない」「観覧チケットのない人は会場に近づかないでほしい」などの5つのお願いにつきましては、ぜひマスクの皆様にもご協力をいただいて、開催まで繰り返し呼びかけていきたいと思っております。

まず、資料の項番1の「マスク着用を原則とする」ということですが、今回、対策を講じる中で最もリスクを感じているのは密集した状況です。花火大会となると密集・混雑が予想されるため、屋外でもマスク着用を原則としたいというものです。ただ、人と十分な距離が保てる場合や会話がなかった場合は外していただいて、熱中症を予防していただきたいと思っております。

飲食物の会場への持ち込みは、従来の発表のとおり可能とします。ただし、食事は黙食とし、アルコールの過度な摂取は大声を出したり、熱中症の原因にもなりますので、くれぐれも節度ある飲酒をお願いします。なお、会場ではアルコール飲料の販売は行いません。

「感動は大きく、声は小さく」ということにつきましては、カウントダウンの掛け声や花火の歓声は拍手をもってお願いしたいというものです。

また、来場される方でワクチン接種が可能な方は、できるだけ接種を済ませてお越しいただきたいということと、新潟県が無料の検査所を設けておりますので、心配な方は抗原検査等を受けてから観覧をお願いしたいと思っております。

次に項番2についてですが、会場につきましては入退場時にかなり密な状態が発生する可能性があります。密集を避けるため、右岸・左岸とも分散退場ということで、堤防の斜面の席と河川敷の平面の席について15分間隔で退場時間を分けて誘導したいと考えております。なお、電車の時間等の都合で退場される方は、逐次、退場していただいて結構です。また、開場時間について、会場に日陰がないため熱中症の危険性がありますので、早く来すぎて熱中症になるようなことがないようにお願いしたいと思っております。それぞれの席種ごとに開場時間を設けてありますので、その時間を目指してお越しいただきたいと思っております。

項番3は、5つのお願いの1つにもありますが、観覧チケットをお持ちでない方は会場付近に近づかないでほしいというものです。特に、大手大橋東詰バス停前の車道につきましては、従来、そこで観覧する方がいますが、今回は警察との協議の中で、入場管理ができないため開放しないこととします。その他の場所でも、チケットを持たずに会場付近にお越しいただくと密が発生しますので、チケットがない方は会場には近づかないようお願いしたいと思っております。なお、チケットは完売しております。当日販売のチケットはありませんので、チケットがない方はご家庭で長岡花火を楽しんでいただきたいと思っております。項番4のとおり、大会の様子はメディアの皆様のご協力により、8月2日のNHK「BSプレミアム」、8月3日のBSN「水曜見ナイト」のほか、NCT、ケーブルネットワーク、インターネットで放映されます。テレビ等で見ていただくか、近所や会場に近づかない範囲で、遠くから十分長岡花火を見られるところもありますので、密を避けてご覧いただきたいと思っております。

項番5についてですが、観覧チケットを購入した方の中でコロナウイルスに感染した、または濃厚接触者になった方が無理をして来場することのないよう、花火大会開催後になりますが、証明できるものがある方については返金を予定しております。詳細につきましては今後の発表となりますが、感染者、濃厚接触者の方につきましては、無理してお越しにならないようお願いいたします。

項番6ですが、会場ではネットワークシステムをNTT東日本様からご提供いただいて、安全管理のための通信環境を整えていただきました。そのほか、長岡警察署をはじめ県警本部から動員をいただき、当財団で依頼した民間の警備員、市職員、ボランティアスタッフなど、従来よりも300人増員して2日間で延べ4,300人の体制で観覧客への注意喚起や大声への注意、混雑の管理等を徹底します。

なお、資料にはありませんが、花火観覧後にまちなかの飲食店で飲食される方が1つのリスクとなりますので、県からの指導にもあるように、換気を徹底していただくことを飲食店に要請をしているところです。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

(司会)

それではこれより質疑応答に入ります。

(記者)

磯田市長と高見理事長にお聞きします。3年ぶりの長岡花火の開催まで、あと10日ほどとなりました。今の心境をお聞かせください。

(市長)

3年ぶりに開催するということが、非常に緊張しております。新型コロナウイルス対策も含めて万全な体制で臨むべく花火財団が頑張っていますが、長岡市としても状況の変化に応じてすべきことも生じると思っていますので、情報をしっかり把握しながら安心安全に花火大会を成功させたいと思っております。

(長岡花火財団 高見理事長)

感染リスクを避けるためには、密な状態や飛沫等を飛ばすような声を出すことがリスクになります。屋外では大きく感染が広がる事例が見られない中で、花火大会の会場にいらっしゃる方々自ら、密な状態では静かにする、マスクをするといった自衛の努力もしていただいて、花火大会が終わった後に感染が広がることがないように、皆様へのご協力をお願いと呼びかけをして、安全な大会を実現したいという思いです。

(記者)

今後、状況が変わってくることに応じて対応が必要になってくるかもしれないということで、今のところ国からの行動制限は出されていませんが、新潟県内だけでなく、東京や首都圏、関西、全国から長岡花火を見に来られる方がいらっしゃると思います。そういったところで行動制限が出た場合の対応はどのように考えていますか。

(市長)

国や県から強い行動制限の動きが出た時には、安全を守るという観点から臨機応変に対応していきたいと思っております。

(記者)

「お酒は控えめに」という呼びかけをされていますが、自粛するという判断もあったと思います。「自粛」ではなく「控えめに」という判断になった理由を教えてください。

(長岡花火財団 高見理事長)

お酒そのものが感染リスクになるものではないと思っております。静かにお酒を飲んでいるという状況が感染を起こすのではなく、お酒を飲むとどうしても声が大きくなったり、マスクの適切な使用ができなくなったり、密な状況を避ける行動がとれなくなるといったことがまさにリスクなので、全面禁止ではなく、協力を求める中で飲酒を認めることにしたという経緯があります。

もう一つは、花火を観覧する方が会場に来られる前に飲食店で飲むことに制限がかけられていないことと、仮に会場で飲酒する方がいた場合に、そういった方を技術的に管理しきれない

ということがあります。これらを総合的に考え、やはり良識に訴えて、私どもや来場する皆さんが相互に注意をすることで、大声を出すことなどリスクにつながる行為を止めていきたいという判断のもとの方針を決定しました。

(記者)

アルコールは会場での販売はないということですが、その他の飲食物の販売はありますか。

(長岡花火財団 高見理事長)

熱中症対策の観点から清涼飲料水の販売を中心に、軽食を含めて販売をする予定です。

(記者)

新型コロナウイルスの感染状況の現状と、その中で花火大会を開催すると判断した理由を改めて教えてください。また先ほど、急な状況の変化が生じたらきちんと対応するというお話でしたが、具体策が想定されていれば教えてください。

(市長)

感染症対策としての行動制限が国・県から出ていない、出る予定がない状況にあることから、開催の判断をしたものです。ただ、今後どうなるのかはわかりませんので、その際には行動制限の内容に応じて、さらなる感染防止対策の実施や内容の変更を考えていきたいと思っております。

(記者)

現在の状況を踏まえて、今日、財団と市で最終判断したということでしょうか。

(長岡花火財団 高見理事長)

昨日の段階で花火財団の理事会、理事の合意を得て、市長と協議して実施を決定しました。これを受け、今日の長岡まつり統括本部会議で報告したものです。

(記者)

市長は1週間前の記者会見時に、状況を見極めたいとおっしゃっていましたが、そこに至るまでに中止が頭をよぎるなど迷いは生じましたでしょうか。

(市長)

あらゆるケースや対応を考えながら、状況の変化を見てきました。感染者が急増しているということについては、しっかり受け止めなければならないと思っております。そういう中で、国や県からの行動制限が出ていない、今後も出る方針はないという確認を取った上での判断になりましたが、明日以降の状況変化をしっかり注視しながら、臨機応変に対応してまいります。

(記者)

昨日開催を決定したということですが、今後の情勢によってさらに変わるという可能性はあるのでしょうか。

(市長)

開催するという発表は現時点における結論です。ただ、今後大きな状況変化がないとも限らないので、その時は臨機応変に対応していきたいと考えています。

(記者)

臨機応変にというのはどのようなことでしょうか。

(市長)

あらゆるケースがありうると考えています。

(記者)

「改めてお願いしたい5つの事項」の2番目で、チケットのない人は会場に近づかないでということですが、従来だとチケットがなくても会場付近でご覧になる市民の方が多かったと思っております。その理由と改めて市民に呼びかけたいことを教えてください。

(市長)

会場内に無料席があつて、会場の周りでも市民の皆さんが観覧していたというのが従来の長

岡まつりの花火大会でしたが、今回は会場内を全て指定席とすることできちんと管理したいと思っています。人と人の距離を保ちたいということで、無料席をなくしました。会場外については本当に管理が難しく、そういったところで観覧する方が押しかけると、会場内がいくら安全でもその外側で感染拡大する可能性が高まります。この点については従来の長岡花火とは異なり、チケットがなければ会場に近づかないで家で見る、テレビなどで楽しむということにしていきたいと思っています。

(記者)

どれくらい近づいたらよくないのかなど、お考えはありますか。

(市長)

考え方としては、密集しているところには行かないということです。近づいても全然人がいなければ差し支えないと思いますが、近づけば近づくほど密集になりやすいので、とにかく人が密集しているところには行かないでいただきたいというのがお願いです。

(記者)

ここ2年中止が続いて地域経済に大きなダメージがあったかと思いますが、今年は通常開催するというので、地域経済への効果や期待することはありますでしょうか。

(市長)

宿泊、飲食も含めて経済効果が極めて高く、長岡市内だけではなく新潟県内全体に大きな波及効果や経済効果のある花火大会ですので、今年はそれを3年ぶりに回復したいという強い思いはあります。ただ、感染症対策という観点からすると、全面的な回復ではなく、ある程度我慢していただくこととなります。来場者、市民、県民の皆様には感染対策にぜひご協力いただいて、静かに開催できればと思っています。経済効果は少し望めない部分がありますが、それはやむを得ないと考えております。

(記者)

この2年中止が続いたことで、関係者や地元の経済界から開催を望む声は市長のところに届いていたのでしょうか。

(市長)

開催しないことによる経済的なダメージはありますので、関係者の皆様からの声はありましたが、やはり長岡の花火が見たいという声は全国から、市民の皆さんから本当にたくさんいただいております。そういう声にしっかりお応えすることが、経済的な効果を生み出すものと思っています。

(記者)

打ち上げプログラムは既に公表されていますが、これに変更はないという認識でよいでしょうか。時間を縮小等の対応は、今のところないでしょうか。

(長岡花火財団 高見理事長)

公表しているとおりで、今のところ変更はありません。

(記者)

行動制限が出た場合は臨機応変に対応するとのことですが、行動制限が出なければ粛々と準備を進めて開催し、制限が出されたら延期・中止を含めて対応するというのでしょうか。

(市長)

例えば県境を越えて来る場合はどうするとか、いろいろなケースを想定しながら臨機応変に対応していきたいと思っています。

(記者)

キャンセルポリシーについては、今日初めて公表されたということよろしいですか。

(長岡花火財団 高見理事長)

そうです。

(記者)

これは第7波の感染拡大を受けて新設されたのでしょうか。

(長岡花火財団 高見理事長)

感染拡大により濃厚接触者になって長岡花火に行けなくなったという方の思いに対して、花火財団が一定額を返金することで、無理をして来てしまうことがないようにしていこうということで定めたものです。

(記者)

返金は全額ではなく一定額でしょうか。

(長岡花火財団 高見理事長)

詳細については現在検討中です。もともとのキャンセルポリシーでは、中止の場合は50%を上限に手数料を差し引いて返金することとしていたので、その範囲で決定したいと考えています。

(記者)

濃厚接触ではなく、感染が怖いから行きたくても行けないというのは、返金の該当になるのでしょうか。結構関心高い部分かと思いますが。

(長岡花火財団 高見理事長)

どういう事情で来られなかったのかということの証明が難しいと思います。今回に関しては、感染や濃厚接触など来られない理由を証明できるケースでないと難しいと考えています。

(記者)

自主的に来ない方は対象にならないということですね。

(長岡花火財団 高見理事長)

はい。

(記者)

会場の座席の間隔は、2019年の時と比べて同じか空けてあるかという点はいかがでしょう。

(長岡花火財団 高見理事長)

同じです。

(記者)

花火の規模は感染禍前と同じですか。打ち上げ数もわかれば教えてください。

(長岡花火財団 高見理事長)

花火の規模は同じです。花火が何台というのはプログラムどおりですが、私たちは打ち上げる玉の数を争っておりませんので公表していません。

(記者)

長岡花火を実施することになって、楽しみにされている方も大勢いらっしゃると思いますが、市民の皆さんに向けて一言お願いします。

(市長)

3年ぶりに長岡花火を打ち上げます。この間、新型コロナウイルス感染症があり、戦争もあり、本当に大変な社会になりました。その中で、ぜひ長岡花火を見て元気を取り戻し、世界平和を長岡市民の声として発信していきたいと思います。会場に来られる方だけでなく、テレビやインターネットで、またご近所でも見えますと思いますので、ぜひご覧いただきたいと思います。

(記者)

先ほど行われた第2回長岡まつり統括本部会議の中では、花火の開催についてどのような反応がありましたか。

(市長)

特に異論や疑問はありませんでしたが、5つのお願いについては本当に徹底してほしいとい

う提言がありました。ぜひマスコミの皆さんからも発信いただき、私たちも例えば広告や番組等で5つのお願いをご理解いただいて、徹底していただきたいと思います。

(記者)

記者発表資料の中に、ホスト役を務めていただく長岡市民の皆様のご理解と、絶大なご協力をいただくとありますが、市外・県外から大勢のお客様をお呼びするという市民の方もいらっしゃると思います。そういった皆さんに呼びかけをしたいことがあればお願いします。

(市長)

感染が急拡大している地域からお客さんをお招きする市民の皆さんには、お客様の体調などをよく把握されて、ちょっと心配がある場合にはご遠慮いただきたいと思います。市民の皆さんのご協力をいただきたいと思います。

(記者)

長岡花火のポスターに込めた思いを教えてください。

(長岡花火財団 高見理事長)

市民の皆様の協力がないと開催ができないことから、「みんなで上げよう」というキャッチフレーズにしました。ただ、これほど協力をいただかないと開催できないという状況は、私どもの想像以上でした。安全に実施するためにいろんな方から協力していただくことが必要で、何とか安全に長岡花火が開催できるよう皆様をお願いしたいと思います。

(記者)

感染症に係る臨時の検査体制についてご説明をお願いします。

(長岡花火財団 高見理事長)

この時期に合わせて帰省する方もいるということで、7月29日から31日までの間、アオーレ長岡の301会議室に県による検査会場が設けられますので、積極にご活用いただきたいと思います。このほかドラッグストア等での実施もありますが、アオーレ長岡の会場はその期間ということで、抗原検査、PCRともに無料での検査ができます。

(記者)

冒頭、長岡花火の意義に鑑み実施したいとおっしゃっていましたが、その部分を改めてお話しいただきたいと思います。

(長岡花火財団 高見理事長)

長岡花火は慰霊・復興・平和を祈る花火で、長岡が戦災で多くの命を失ったことから始まっている花火です。今の世界情勢において、平和ということを改めて強く考える必要がある中で、長岡花火の意義である平和への想いというものを鑑みて実施したいというものであります。